

この学校の名物に
最近新たに加わったものがある

キモカス vs クール系アイドル

前編





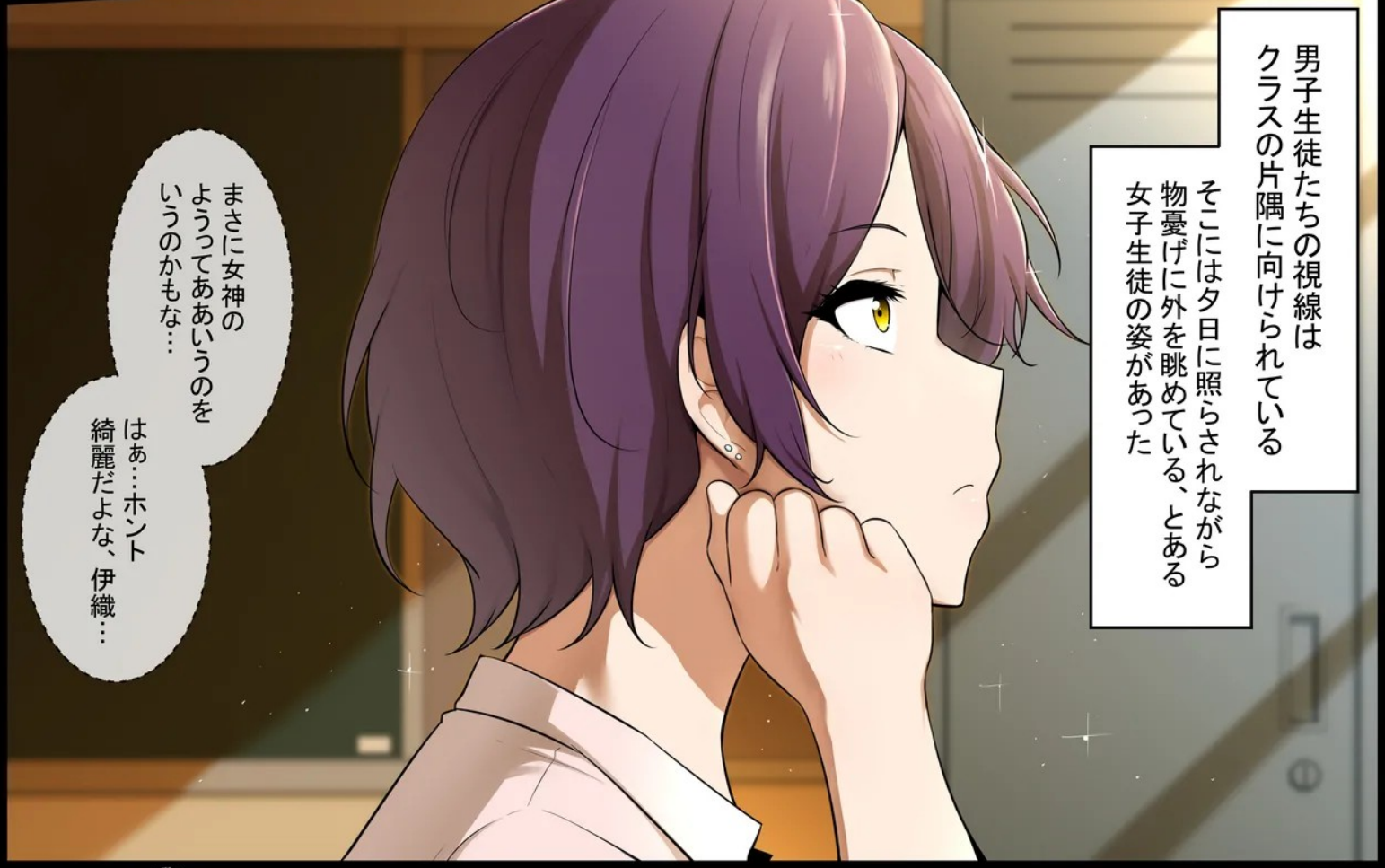
はあ~~~~~
ホント綺麗だよ
なあ...

なんか完成
された美って感じが
する...

俺達と同年には
見えねえよマジで

サ...

ササ
ササ



男子生徒たちの視線は
クラスの片隅に向けられている
そこには夕日に照らされながら
物憂げに外を眺めている、とある
女子生徒の姿があった

まさに女神の
ようってああいうのを
いうのかもな...

はあ...ホント
綺麗だよな、伊織...



ていつかこの間の
雑誌見たか?
月明かりをバックに
挑発するような視線
俺しびれちまったよ...

ぶう...

普段からクールな
タイプだと思ってたけど
ああいう熱い感じにも
なれるんだな...

この学校の名物に
最近新たに加わったものがある

それが現在学生アイドル
伊織渚の存在だった

艶めかしい艶髪に端正な顔
きめ細やかな肌にしなやかな指

メリハリの付いたボディライン

きわめて整った容姿に
どこかつかみどころのない雰囲気
魅力を振りまく渚

そんな渚がアイドルとして
活動し始めて成功しない筈がなく

渚は一気にアイドル業界で
頭角を現し始めていた



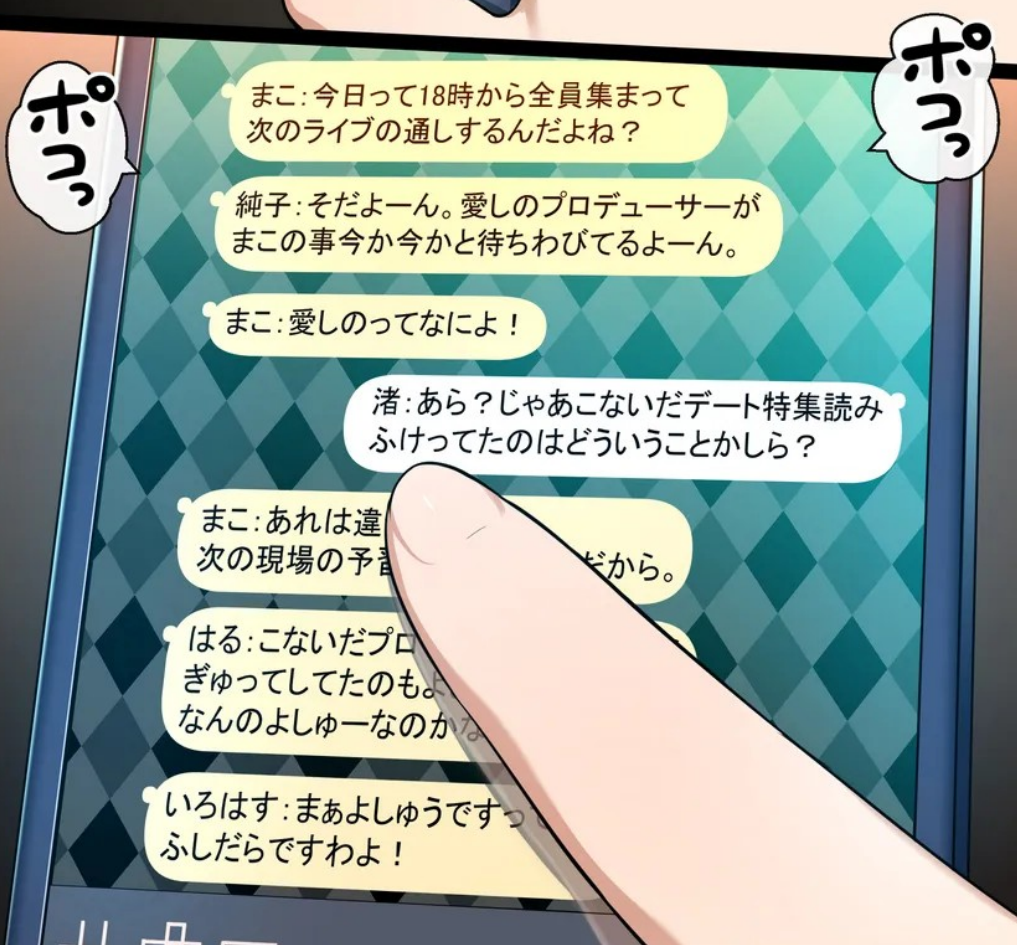
そんなトップアイドル街道
まっしぐらな渚のスマホが
震える



そこには、チャットアプリの
グループチャット画面が映し
出されていた

次々とチャット画面を
流れていく会話

美女だ神秘的だと持て囃されては
いても、まだまだ自分は未成熟の女だと
いう自覚は持ち合わせていた



まこ: 今日って18時から全員集まって
次のライブの通しするんだよね?

純子: そだよーん。愛しのプロデューサーが
まこの事今か今かと待ちわびてるよーん。

まこ: 愛しのってなによ!

渚: あら? じゃあこないだデート特集読み
ふけてたのはどういうことかしら?

まこ: あれは違
次の現場の予言
だから。

はる: こないだプロ
ぎゅってしてたのもよ
なんのよしゅーなのかな

いろはす: まあよしゅうですっ
ふしだらですわよ!

だからこそ、渚は日々努力を怠らない。
自分が生娘という自覚をバネに、レッスンや自分
磨き、アイドルとしての活動に全力を費やすのだ

しかし、そうは言っても
渚もまだ年頃の女子

いくらアイドルとして基礎を固め
演技やプロポーションを研ぎ澄ませ
ても、渚の根本はまだ年相応



チャット見て感じる思いは
どこにでもいる、ありふれた
女子学生のそれだった

そんな渚にとって
ありふれた日常が広がって
いたのがつい1時間前



はっはいつたあ！はいつたよ
なぎさちやあアッ！！

いやあッ！...！！
やああッ！

どいてッ！
離してえッ！



は、初めて同士
いいしよにきもちよく
なるうねッ！...！！
んぢゅぐッ
うひひい！...！！

おねがいつ
お、お願いします！

下着が欲しいなら
あげるからッ！

おっぱいだっていつでも
見せてあげるからあッ！

ケキッ

ケキッ

むわっ



ふひっひひっ...！！
膜あつたあッ！...！！

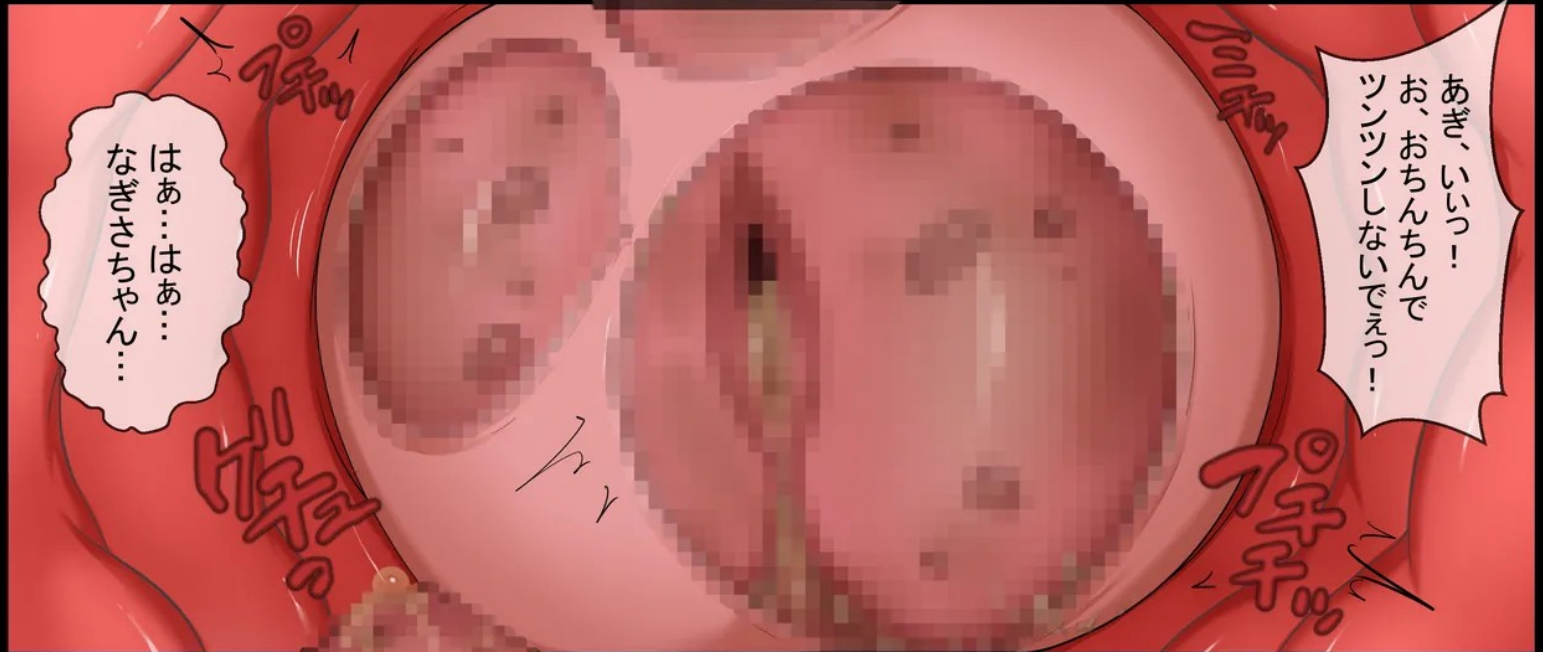
ケキッ

ひっ！...！！？

渚ちゃんのぷりぷり
おまんこガードあつたあッ！

あぎ、いっしー！
お、おちんちんで
ツンツンしないでえっ！

はあ…はあ…
なぎさちゃん…



僕が大事にしてきた
童貞…ううっ…

受け取ってねッ！

アホッ…

ッ…！



アキッ
アキッ
アキッ
アキッ

アキッ

アキッ
アキッ

アキッ



深々と渚のまんこに
突き刺さった包茎ちんぽ

あ…ああ…

ハア…

ハア…

そんな…

渚のきつきつ初物膣内で包皮を
剥きながら掘り進み、処女膜を破ったと
同時にその亀頭を膣内に擦りつけた

キキッ…

キキッ…

包皮内で熟成された臭っさい
チンカスが、膣ひだの隙間深くに
ぐちゅぐちゅと刷り込まれていく

かっは…

やった…やったあ
んふふ…♡

（ぶんぶん…）

どうして私の
はじめてが、こんな…

そんな女として終わってしまう
様な初体験をさせられた渚は

現実逃避の代わりとばかりに
つい一時間前の事を思い出していた

キキッ…

キキッ…

キキッ…

キキッ…

キキッ…

ホームルームも終わり
プロデューサーやアイドルの仲間が待つ
事務所へ向おうと下駄箱を開けた時
渚は目を疑った

うそっ…

そんな…!?

本来そこにあつたはずの
海の底のような深い藍の
輝きを放つネックレス

それが忽然と姿を消していたのだ

普段は肌身離さずカバンに
入れて持ち歩いているのだが

しかもそれはプロデューサー
からの贈り物で

その日に限っては、抜き打ちの
持ち物検査が行われていたので
急遽下駄箱へ避難させていたのだ

渚がライブで初めて
成功を収めた日にプレゼントされた
思い出のネックレスだった

だが、いくら探しても
見つからない

行き着いた結論は…

用務員室

ホッ
ッ
ッ

…落とし物として
届けられてないか

見に行くしか
ないわよね…

用務員室…

グッ

その言葉を発した渚の声色は明らかに沈んでいた。ネックレスの件も原因ではあるのだが

その理由の大半は用務員室の主にある

えっ…

この学校の用務員は学内限定で渚と同じくらい知名度があった

しかしその知名度は、渚に向けられる感情とは間逆の感情、つまり悪い意味で有名という奴だった

名は、池沼ゆうたという

ズ…

ズ…

コネで用務員として雇われたこの男、不細工チビデブハゲという4大キモ男要素に加えて、えげつない体臭に滑舌の悪い口調

極め付けは、女子生徒達に對するセクハラじみた発言の数々と、よくもまあここまで生理的に無理な男になれたものだ

逆に感心してしまうほど男としてオワっていた

…

…考えても仕方ないわね

グ…

職業柄、渚はそんな男にも最初の内は優しく接していたのだが

それを池沼は自分に気があると勘違いして、渚に対して熱烈なアプローチを仕掛けるようになってしまった

ないとわかったらすぐに帰ればいいだけだし…

ガッ
ラッ

すいません
落し物…

ガタつく用務員室のドアを開けた先で渚の目に飛び込んできた光景は、おぞましいものだった

股間をもぞもぞといじりながら池沼がぶちやぶちやとしゃぶっているのは見間違えるはずもない

むわっ…

プロデューサーからもらった
思い出のネックレス

あまりの現状に
思考が硬直する

その動揺は、池沼の手が渚に迫っている事への反応を遅らせるには十分

は…あ？

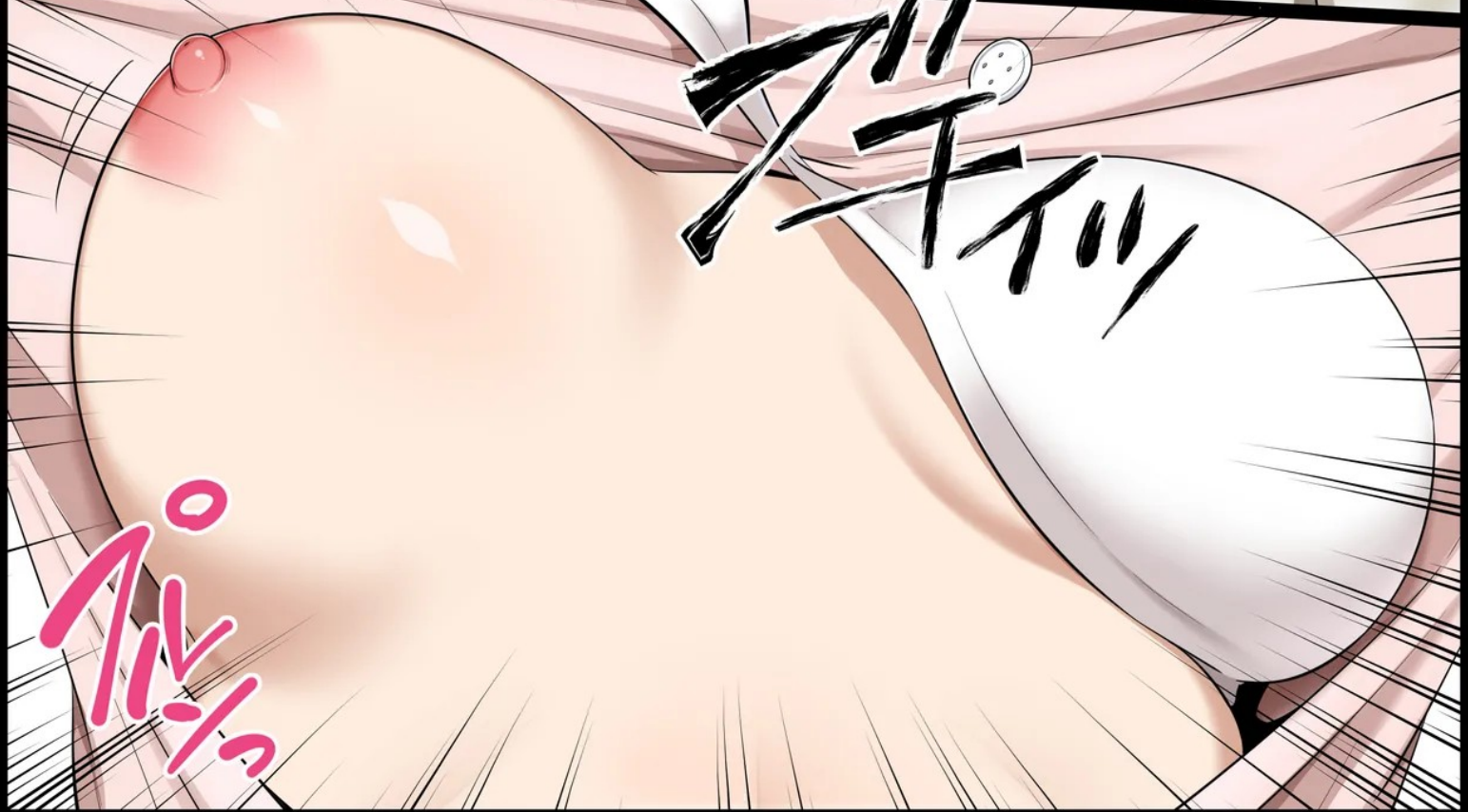
むっ
むっ

そこからは
あっという間だった



みるみるうちに渚は
備え付けの寝汗まみれ垢まみれの
布団に押し倒され

シャツのボタンを
力任せに引きちぎられた



清潔感のある白いブラを
ちぎるように剥ぎ取った池沼は

いやあっ！
離しッ

オッオッ

ファン垂涎の現役アイドル
生ばい乳首に飛びつくように
吸い付く

あッあッあッ…

初めて男に乳房を見られ
初めて胸を弄ばれた

はがアッ！？

ふう…ふうふう…
なぎさのおまんまん
きゆうきゆう締め付けてきて
離してくれないよお…

ひっなにして…

にゅぽっ

おね、がい…ぬいてえ…
ぬいてちよつだ…い…いまなら
だれにもいわない、からあ…

くぎぶツン…?

むき出しになった肌に吸い付かれ
身体中に赤黒いキスマークを点々とつけられた
それも、自分が一番忌み嫌っていたキモ男に

その後伊織渚の純潔は、キモカスクソヤバ妄想
癖持ちストーカー中年の蒸れ蒸れ熟成チンカス
包茎ちんぽによってあっけなく食い散らされ
ぴっちり閉じた新品まんこは、一瞬で最悪の
処女喪失をした経歴持ちの中古穴にされて
しまったのだ

キチッ
ゲキッ

キチッ
ゲキッ

なぎさもぼくとずっと
つながりたかったんだね…
ぢゅっふふ

ね、なぎさ…❤

ひみつにするからあ…
すきなと、してあげる
からあ…ひゅっ…

うんうん…そうだね…
恋人ができましたなんて
恥ずかしいよね…



渚の心を罪悪感と後悔が埋め尽くす
本来なら自身の想いとともな彼に捧げたかった
それが、たった十数分で身も心も台無しにされて
しまったのだ

だれにも言わないよ…ぼくたちの
関係はふたりだけのひみちゅ…
ふひゅっひゅっ!

ち、が…おねがい
おねがいよお…

(ごめんなき、い…
Pさん…私の初めて…
取られちゃった…)

年頃の女子高生が大きなシヨックを
受けるもの無理はないことだった

だが、渚にはまだ処女と同様
いや、それ以上に大切にしてきた
純潔があった



クチビルである

キスしたいアイドル部門
一位にも選ばれた、渚自慢の
チャームポイント

は…うっ…

ハア…

ぬいて…おちんちん
…ぬいてえ…

何度もPに褒められた
自身の体の中で一番好きな
部位でもある





(そう、よ…
まだ、唇までは…
奪われていないわ…)

(どろ、にかしなぎや…
どろにか、しロ)

な〜ぎさち♡

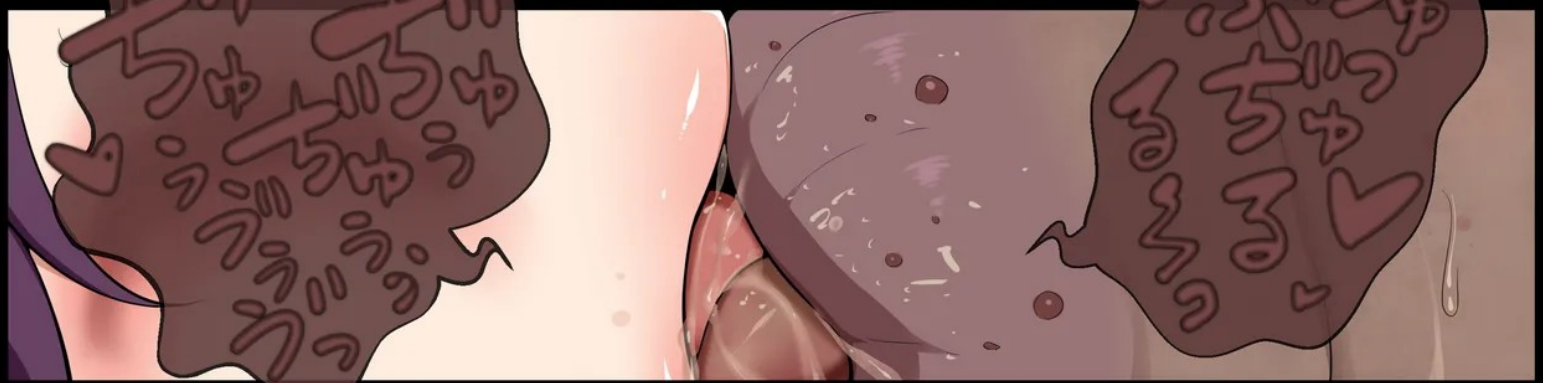
ん~~~~~♡



ちゅっ♡

おろ

ちゅっ♡
ちゅっ♡
ちゅっ♡



ちゅっ♡
ちゅっ♡
ちゅっ♡
ちゅっ♡
ちゅっ♡
ちゅっ♡
ちゅっ♡
ちゅっ♡
ちゅっ♡
ちゅっ♡

ちゅっ♡
ちゅっ♡
ちゅっ♡
ちゅっ♡
ちゅっ♡
ちゅっ♡
ちゅっ♡
ちゅっ♡
ちゅっ♡
ちゅっ♡



涙と鼻水でぐちゃぐちゃになりながら
プライドすら投げ捨てて必死に懇願する渚
唇を食られながら半狂乱となって暴れる渚の
ブスキス顔は、普段のセクシーでクールな様子
からはとても想像できないほど酷く醜い

しかし渚にはもはや自身のイメージ
などに気を配る余裕はない
本能が発する嫌悪感に身を任せ、ただ
じたばた暴れるしか出来なかった



んぶつはあぶぶぶつ！……！
あゝぎもぢいじいじい

なぎさのおまんこぎもぢいじい
あつでぢやうつ♡ちんちんから
びゅっびゅつてぢやうつ

日頃から渚の盗撮写真でオナニーばかりして
生殖力ばかり鍛えられた池沼。金玉の中には
渚の受精卵を今か今かと犯そうと待ちわびた
池沼の劣等遺伝子を含んだ精子がうじゃうじやと
蠢きあっていた

ばひっはひっはひっ！

おねがごと、出し

うゝゝゝ！でるっ……！
びゅっびゅでるっ……！

対する渚は、危険日ドストライクの日だった
今もぷりぷり排出されている卵子達のいる子宮に
もし仮に精子達が流し込まれてきたとしたら
受精妊娠着床幸せポテ腹の未来が確定してしまう

なぎさのあかちゃんへのやっ！
ぼくとのしあわせあかちゃん
うえつけるっ！うっうっうっ！

やっつっ！いやあつっ！
にんしんいやっつ……！
あがちゃんいやあつ！
あゝあゝあアゝあ！

人気絶頂アイドルの子宮に
歳最底辺キモ男のザーメンがみゆくみゆく
と注がれ

菌のつまった性汁が
健康的だった子宮をじくじくと
穢していき、渚を女として
終わらせようとする

ファンがこの事を知ったなら
きっと卒倒ものだろう

とめどなく流し込まれる
唾液は、渚の喉に絡みつきながら
飲み込まれ

カスマみれの唾液は、その強烈な
エグみと生臭さで、アイドルとして
大切な生命線である声帯を容赦なく
ズタズタにしていく



こうして、順風満帆なはずだった
現役セクシーアイドルの初体験は

はあ...はあ...
きもちよかったよ
なぎちゅ♡

グッポッ

ストーリー用務員の不潔極まりない
汚辱によって台無しにされてしまった



むわあ〜

グッポッ

長い種付け射精が終わり
汚いちんぽが汚い音を立てて
引き抜かれる

うっ...うっ...
ひ...どい...

ケス...

ひ...
ひ...

ひどい...わ...
わたしのはじめてえ...

素っ頓狂な声を上げた渚の
まんこは、ぽっかりと池沼の
ちんぽの太さに広がっていた

ぶ
り
ゅ
り
ゅ
...

ぶ
り
ゅ
り
ゅ
...

その穴から、どろどろと
濁った泥の様な精液が溢れ
出してくる

汚液は渚の愛液と血液と混ざり合って
精臭香るフレンドザーメンとなって布団の
シーツの上に滴り落ちていく

ぶ
ぶ
ぶ
...

ぶ
り
ゅ
り
ゅ
...

はひっ
ひいっ...?

せ、精液ッ
にんしんッ妊娠
しちゃうっ！

ださ、出さなきやッ

なぎさ、これみて♥

はあっっはあっ
「ほっっえ...っ」

よく撮れてる
でしょっ♥

『びゅっびゅでるっ...できるっ...
あかちゃんのへやにっ...』

ぼくとのしあわせ
あかちゃんうえつけるっ...!!
うっっうっうっうっ!!

『やっっっ...いやあっっ...!!
にんしんいやっ...!!あがぢゃんい
やあっ...!!あああああアあ!!』





そ、そんな...っ！
けしっ おえ

ええ？こんな
きれいに撮れてるのに
勿体無いよお

け、けして...！
おねがいだから...！

そうだあ！

せつかくだからヌイッタに
あげちゃおうよ♡

ス...

ガッ
ガッ
ガッ



世の中の勘違いしてる
クソオタクにさ、見せつけ
ちやおつ♡

や...いや...！！
おねがいがさないでっ！！



ガッ
ガッ
ガッ



そうと決まれば...

● 眩く
◎ 全てのアカウントに
& 音楽 & 私
nasumusi Ω tomoegozen
おちんちんランドに1000年ほ
って宿泊料をちんちんで払いた



わ、私……！
こじりみえて

恥ずかしがり屋
なのっ……！！



う……

いいままで
ひみつにしていたけど……
こじりというのみんなに
みられるのって、ちよつと抵抗が
あるっというか、その……
ゴキッ……



ス……

おふっっ♡

ちよつ



ぬひっ
w

ゴゴ

ゴゴ



ふ、ふたりだけの
秘密ってことにい...

してくれない
かしらあ...♥

スリ...

スリ...

ゴク



ふひっw
ふほっ♥

ちゅ

ちゅ
ちゅ
ちゅ

ゴク

ゴク

ね？
ねえ？

おねがぁ〜い♡

精神をボロボロにされながらも
目の前の最悪を回避するために

アイドルとして使うはずだった
演技で、必死にちんこび雌懇願を
アホみたいな猫なで声でする渚の姿は

もはや滑稽を通り越して
無様なものとなっていた

ほっ本当!?!

えろ?…しょうがないなあ♡
なぎさはホントに照れ屋さん
なんだから♡

その代わり♡

!?

もやあ…



は、ひっ……?

なぐぎさ♡



これから僕のおうちで

いっぱいーっばい
思い出作ろうね♡

ズズズ……

いやっ！離して、ええっ！
もう十分でしょうっ！いや
だってばあっ！

時刻はすでに、最終下校時刻を過ぎていた
周りに人気はなく、渚の助けを求める掠れた
声など誰にも届かない。
未だ股の痛みで足腰が動かない渚を、池沼は
持前のパワーで引きずっていくのだった

